

JP131 加茂川河口 (かもがわかこう)

愛媛県：西条市

位置	N 33° 56′ E 133° 09′
----	----------------------

面積	470ha
----	-------

環境構成【河口干潟（砂泥質）／河川／ヨシ原】

加茂川は石鎚山系を源流とする2級河川であり、幹川流路延長は約28km、河口には隣接する中山川の河口干潟と合わせて約383haと愛媛県最大の干潟が干出する。砂泥質の干潟にはヤマトオサガニなど多くのカニが生息しているが、海岸線は護岸整備によりコンクリート堤防となっている。河口周辺には水田地帯が広がり、河口部と合わせて多くの鳥類が生息する。干潟の先端部では冬期にノリ養殖が盛んに行われている。



写真提供：山本貴仁

選定理由

A1	ズグロカモメ
A4i	キアシシギ・チュウシャクシギ

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

保全への脅威

- ・鳥獣保護区の範囲が限定的で、鳥獣保護区以外では狩猟が行われている。
- ・満潮時の休憩地がない
- ・河口沖で海苔養殖が行われている。冬季、カモ類の食害が問題になることがある。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
ズグロカモメは増加、キアシシギ、チュウシャクシギは変化なし。
- ・IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
<調査データの入手方法>
野鳥の会東予地区連絡会
- ・IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：

変化はない

・ IBA 選定基準種の生息環境：良好（全域、もしくは 90%以上が最適の状態）

・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

*30 年ほど前から二枚貝が減少。その他の生物については良好。

ベントスでは多くの希少種が生息。

ズクロカモメについては、越冬個体数が増加。

保全活動

・ 環境教育活動：実施者（野鳥の会東予地区連絡会、特非 西条自然学校 ）

内容：干潟での自然観察会、シギ・チドリ類の探鳥会が開催されている。

・ モニタリング調査：実施者（ 野鳥の会東予地区連絡会、特非 西条自然学校 ）

内容：野鳥の会東予地区連絡会においては、シギ・チドリ類のカウント。

特非西条自然学校においては、ベントスの調査を実施。

日本野鳥の会愛媛は、カモ類調査。

IBA サイトの保全に関する地域のグループ

・ 野鳥の会東予地区連絡会

・ 特非西条自然学校

見られる鳥

春と秋にはハマシギ、シロチドリなどのシギ・チドリ類が多く観察され、特に春には 300 羽を越えるチュウシャクシギの群れが見られる。冬期には多くのマガモ、ヒドリガモなど多くのカモ類が渡来し、河口沖ではホオジロガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリが見られる。また、ズグロカモメの越冬地となっており、近年では 100 羽を越える個体数が観察されている。他にもクロツラヘラサギ、ヘラサギ、カラシラサギなど希少種が飛来する。

留鳥	カイツブリ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、イソシギ、シロチドリ、ミサゴ
夏鳥	コアジサシ、オオヨシキリ
冬鳥	カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、マガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、オカヨシガモ、ホオジロガモ、ユリカモメ、セグロカモメ
旅鳥	キアシシギ、ソリハシシギ、オバシギ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、ダイゼン

関連団体・自治体・施設等

・ 日本野鳥の会 愛媛



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCo, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community